

前橋工科大学堤研究室

公共施設マネジメントによる住民×学生のまちづくり

前橋工科大学工学部建築学科堤研究室 〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460-1
 URL <http://rdm-lab.net/lab/> E-mail tutumi@maebashi-it.ac.jp
 Twitter <https://twitter.com/BentenPlace> Facebook <https://www.facebook.com/tutumiken/>

堤研究室×前橋市

前橋工科大学堤研究室では、公共施設マネジメントを軸に建物の長寿命化を目指し(左)、ソフトからハードまで、対象は小さなものから大きなものまで、さまざまな角度から研究を行っています(右)。ここでは堤研究室の活動のうち、地元前橋市で行っている最近の研究内容をご紹介します。

空き家実態調査→政策提言

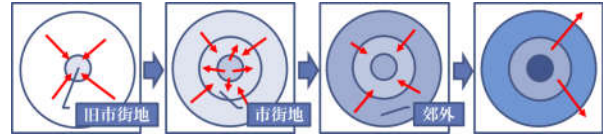
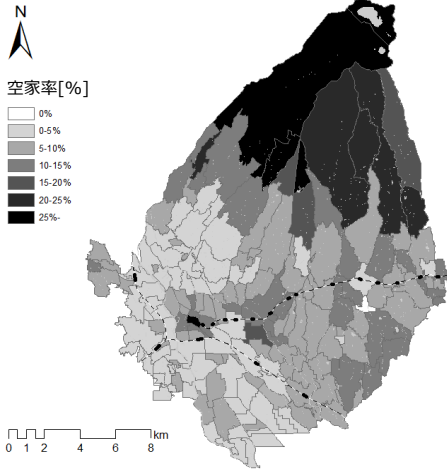
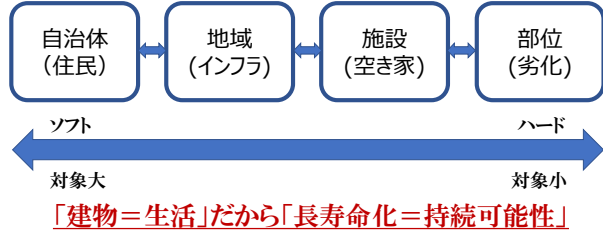
2015年から前橋市との共同研究「前橋市における空家対策支援」による空き家の実態調査と分析、そして政策提言を行いました。全棟目視調査による空き家の分布を整理した結果、旧市街地を中心とした同心円状に分布傾向が異なることが明らかになった(右)ことから、その経緯をモデルで示す(右)とともに、空き家政策には実態に合わせた地域区分が必要であることを示した。前橋市ではこの調査結果を受け、中心市街地の対策を一部変更しました。なおこの傾向は、前橋市民だけでなく多くの地方都市も同様だと考えられるため、上毛新聞をはじめマスコミで取り上げてもらうだけでなく、シンポジウムの開催、書籍・論文など様々な形でとりまとめています(右)。

研究1 公共施設管理に関する研究

- 公共施設マネジメントシステム構築に関する研究
- 公共施設の再配置/用途変更に関する研究
- ハコモノ(公共施設)/インフラの評価に関する研究

研究2 建物の長寿命化に関する研究

- 木造大壁の非破壊検査手法に関する実証研究
- 新しい建物/施設の維持保全計画に関する研究
- 空家の実態調査/活用によるまちづくりに関する研究

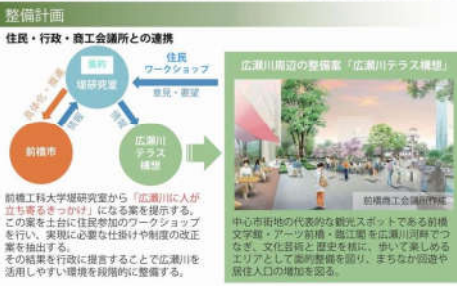


- 人の流入が止まる→高齢化→空き家増加
 - 都市の老い→大都市に人が流れる可能性大
- ※高齢化が進む地区 = 空き家活用が進まなければ地方都市の持続可能性は難しい



「タチヨル」プロジェクト→広瀬川整備

前橋市との共同研究の開始と同時に「空家部会」という一般公開の勉強会を月1回まちなかで行っています。今年11月時点で54回開催していますが、そのなかで話題となったのが前橋市中心地を流れる広瀬川河畔です。広瀬川は「水と緑と詩のまち」前橋のシンボルとして前橋市民に親しまれていますが、賑わいはあまり感じられません。そこで「空家部会」では広瀬川河畔の有効活用による広瀬川河畔に賑わいをつくる手法を検討しました。残念ながら空き家活用プロジェクトは中断してしまいましたが、広瀬川河畔については住民や学生が自分たちで再整備する提案を堤研からしたいと思い、2018年にBaSSプロジェクトの一環として近隣住民を中心としたワークショップを開催しました。このワークショップでは、広瀬川河畔に気軽に立ち寄りしてほしいという思いから「タチヨル」プロジェクトと命名し、4回の住民ワークショップの中で広瀬川の位置づけ、整備手法の検討、選挙に見立てた整備手法(タチヨルづくえ)の選定、そして「まえばしまつり」で子どもたちと実物作成と利用まで行い、その効果を確認しました(右)。これらの成果は「前橋市アーバンデザイン」策定のためのワークショップに発展し、今後の広瀬川河畔の再整備につながるようになりました。



2017年実施のワークショップ

第一回ワークショップ 平成29年3月7日
「住民と共に考える広瀬川周辺整備」
周辺住民に広瀬川の由来・地域の特色についてヒアリングを行い、広瀬川の魅力・改善点・可能性を明確化した。
改善点：整備が行き届いていない・車寄せシステムがない
可能性：自然を活かしたイベントを提案へ多く仲間づくり

第二回ワークショップ 平成29年5月19日
「自分のタチヨルを考える」
堤研から広瀬川に立ち寄りたくなるきっかけを3つ提示し、それを日常的に活用する工夫と自分が考える新しい立ち寄りたくなるきっかけを発表するグループワークを行った。このワークショップで出た意見から、実現する程度待てる休憩所がまだ必要と設置する「タチヨルBBQ」が加わった。

第三回ワークショップ 平成29年6月20日
「タチヨル選挙」
各案についてグループごとに活用方法を考えたプレゼンテーションを行い、これらをもとに「一審的にかつたいたいものはどれか」という題について参加者全員で投票を行った。その結果、広瀬川の橋にカウンターテーブルを設置する「タチヨルづくえ」が選ばれた。

第四回ワークショップ 平成29年11月4日
「つくってのワークショップ」
平成29年実施のワークショップの締めくくりとして、第三回で選ばれた「タチヨルづくえ」を実現に向け、活字体験のワークショップを行った。
このワークショップにおいて「タチヨルづくえ」は実際に広瀬川に人が立ち寄りたくなるきっかけになり、一時的ではあるがにぎやかな効果があることが明らかになった。
費用：材料費約10万円



Benten study place → まちづくり

広瀬川河畔では実現できませんでしたが、空家部会では引き続き空き家活用について検討を行ってきました。その結果、2019年7月に弁天商店街の空き店舗を活用し、学生が主体となった「benten study place」の営業が開始しました(上)。群馬大学医学部学生 & クラウドファンディング(左)と組み、自立型個別指導による学習塾事業に取り組んでいます。これらの活動を通して、商店街との連携により賑わいを取り戻す手法、さらに採算を前提に学生や若者をまちなかに呼び戻す仕組みを構築したいと考えています。またBaSSプロジェクトで立ち上げたNPO(RDMラボ)の拠点として、広瀬川を中心としたエリアマネジメントの仕組みづくりの準備に取り掛かっています(右)。将来的には地域再生エリアマネジメント負担金制度(日本版BID)を活用し、広瀬川河畔と商店街を連動した地域事業を目指します。



前橋の学生の挑戦！商店街の空家を中高生に勉強を教える場に

群大医大生 × 前工大堤研究室

585,000円

プロジェクトが成長しました！

